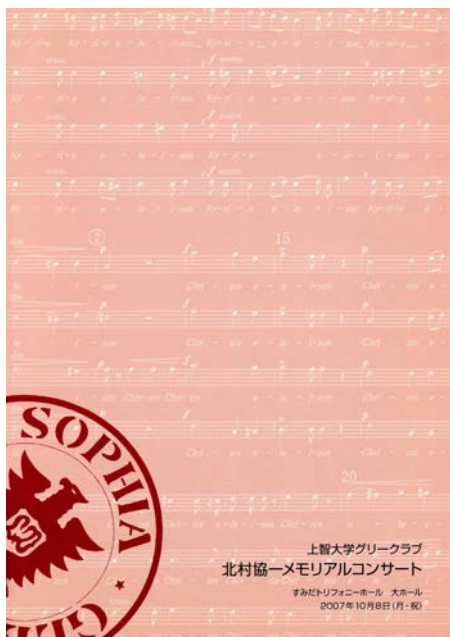


北村協一メモリアルコンサート【2007年(平成19年)10月8日】すみだトリフォニーホール



北村先生のこと

作曲家 多田 武彦

私事で申し訳ないが、将来はミュージカル映画を作ってみたいと思い、1946年頃から、独学で和声学や楽式論の勉強をはじめた。だが、1949年5月5日の関西学院グリークラブ50周年記念演奏会を聴いて、ア・カペラ男声合唱の虜となった。後になって判ったことだが、関学グリーの揺ぎない基礎を築かれた林雄一郎先生(故人)の正統的西洋音楽の構築性は、爾後の指揮者やメンバーによって継承された。そしてこの特質を、異文化である日本の歌曲・合唱曲に交配し、独自の世界を作り上げられたのが北村協一先生である。

余り知られていないが、北村先生は畑中良輔先生と同じく、幼少時より歌舞伎・文楽などの古典芸能を見聞し、これらの持つ様々な時間的空間的動態力学を、日本歌曲・合唱曲の演奏に応用された。定期的に、このお二人は、坂東玉三郎丈と会い、玉三郎丈から歌舞伎・浄瑠璃の奥義を教わり、玉三郎丈はお二人から西洋音楽の奥義を教わるといった交流が永年続けられていた。この結果、日本の詩群に存在する「起承転結・喜怒哀楽・花鳥風月・春夏秋冬」が、西洋音楽の特性との交配によって、見事な演奏を开花させた。

永年、北村先生の薫陶を受けてこられた上智大学グリークラブOB合唱団と東京新月会各位のメモリアルコンサートを拝聴しつつ、心より北村協一先生のご冥福をお祈りする。